

水稲ひとめぼれ，まなむすめの幼穂形成期生育量と窒素吸収量の関係

農業センター，古川農業試験場

1 取り上げた理由

ひとめぼれ，まなむすめの追肥時期に当たる幼穂形成期の生育量と稲体窒素量について検討したところ，生育調査のデータ（草丈，茎数，SPAD 値）から窒素吸収量を判定できるので参考資料とする。

2 参考資料

1) 草丈， $m^2$ 当り茎数及び SPAD 値（SPAD502 型では SPAD501 に補正した値）を乗じた値を栄養指標値とする。これは，普及に移す技術第 69 号の参考資料「ひとめぼれの倒伏診断」における倒伏指標値と同一である。

$$\text{栄養指標値} = \text{草丈(cm)} \times m^2\text{当り茎数} \times \text{SPAD 値} \div 10^6$$

(注: SPAD 値は SPAD502 型では SPAD501 に補正した値)

2) ひとめぼれとまなむすめは栄養指標値からそれぞれ稲体窒素量が判定できる。

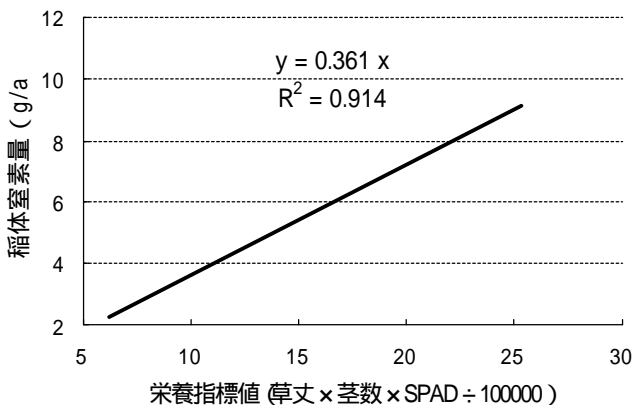


図1ひとめぼれ幼穂形成期栄養指標値と稲体窒素量

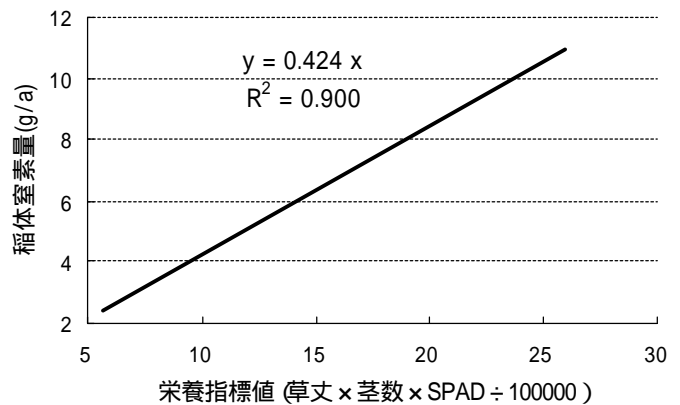


図2まなむすめ幼穂形成期栄養指標値と稲体窒素量

3) ひとめぼれの幼穂形成期稲体窒素量の目安となる $m^2$ 当り稲体窒素量 5.3~5.8 g の場合，栄養指標値は 14.7~16.1 となる。

4) まなむすめの幼穂形成期稲体窒素量の目安となる $m^2$ 当り稲体窒素量 5.3~6.0 g の場合，栄養指標値は 12.5~14.2 となる。

3 利活用の留意点

1) この関係は，ひとめぼれとまなむすめの慣行栽培において適用し，復元田等穂首分化期以降の窒素吸収量が多い場合には適用できない。

2) 品種あるいは生育時期によって回帰式が異なるので，ひとめぼれとまなむすめの幼穂形成期以外には適用できない。

3) ひとめぼれについては，倒伏関係は，普及に移す技術第 69 号の参考資料「ひとめぼれの倒伏診断」，幼穂形成期生育量の目安については，普及に移す技術第 75 号「ひとめぼれの栽培法（第 63 号追補）」を参照する。

4) まなむすめについては，普及に移す技術第 75 号「まなむすめの栽培法（第 73 号追補）」を参照する。

( 問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話 0229-26-5106 )

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

需要創造型みやぎ米の評価向上対策事業「高品質・良食味みやぎ米の均質生産技術の確立」(平成2年～3年)

商品性の高い宮城米の高水準安定生産技術の確立(平成4年～9年)

新品種栽培法の早期確立(古川農業試験場,平成8年～10年)

優れた品種特性を生かした水稻栽培技術の確立(平成10年～12年)

##### 2) 参考データ

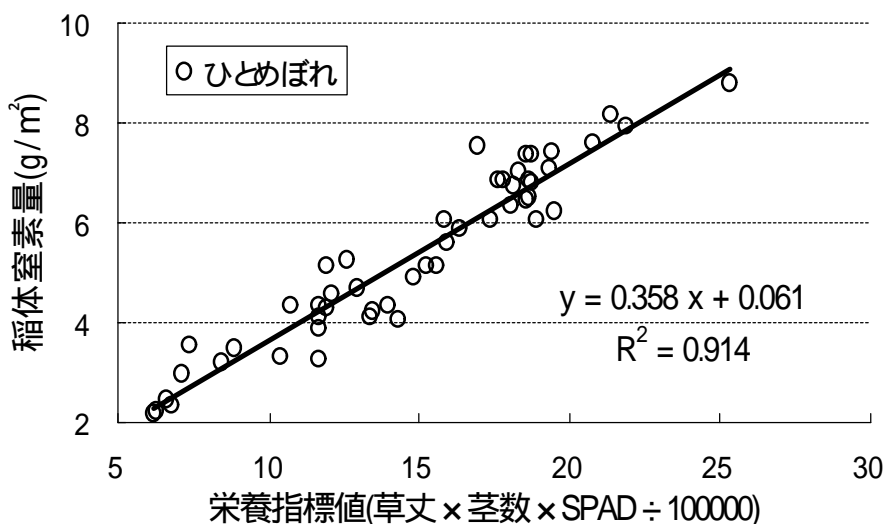


図1ひとめぼれ幼穂形成期栄養指標値と稲体窒素量

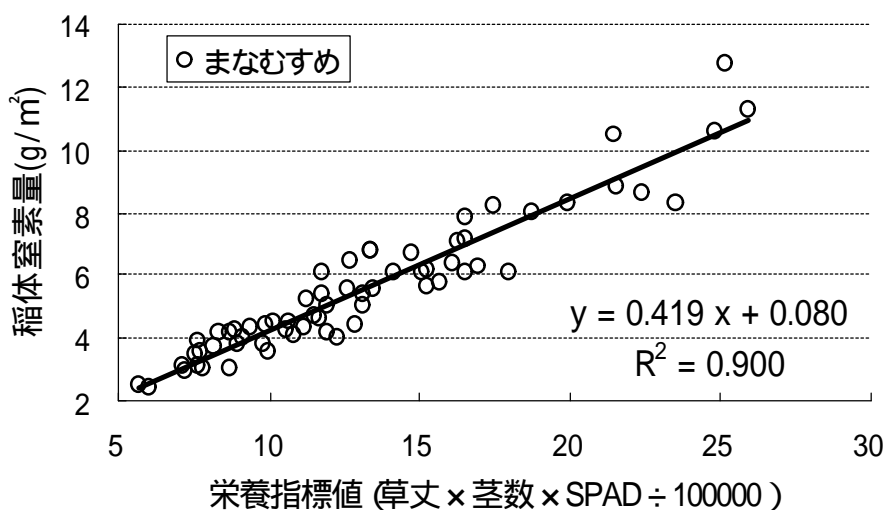


図2まなむすめ幼穂形成期栄養指標値と稲体窒素量

##### 3) 発表論文等 未定